

平成 19 年 6 月 20 日

各 位

会社名 ゼネラル株式会社
代表者名 代表取締役 北田 猛
(コード 3890 大証第2部)
問合せ先 経理部長 有野 隆久
(TEL 06 6933 1805)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 3 月 20 日付当社「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表した平成 19 年 10 月期業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

- 1 19 年 10 月期 個別中間業績予想数値の修正(平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日)
(金額の単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回修正予想(A)	1,100	300	400
今回確定数値(B)	1,081	319	477
増減額(B-A)	19	19	77
増減率(%)	1.7%	6.3%	19.2%
前期(平成 18 年 4 月中間期)実績	1,171	222	197

- 2 19 年 10 月期 連結中間業績予想数値の修正(平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日)
(金額の単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回修正予想(A)	14,000	500	200
今回確定数値(B)	13,909	524	338
増減額(B-A)	91	24	138
増減率(%)	0.6%	4.8%	69.0%
前期(平成 18 年 4 月中間期)実績	16,826	435	78

3 19年10月期 個別通期業績予想数値の修正（平成18年11月1日～平成19年10月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回修正予想（A）	2,000		350	450
今回修正予想（B）	1,800	300	350	450
増減額（B - A）	200		0	0
増減率（%）	10.0%		0.0%	0.0%
前期（平成18年10月期）実績	2,131	412	345	224

4 19年10月期 連結通期業績予想数値の修正（平成18年11月1日～平成19年10月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回修正予想（A）	28,500		700	500
今回修正予想（B）	29,000	700	900	500
増減額（B - A）	500		200	0
増減率（%）	1.7%		28.5%	0.0%
前期（平成18年10月期）実績	31,957	644	723	192

5 修正の理由

（個別業績）

中間期においては、売上高に関して、ほぼ前回発表数値となりましたが、経常利益で19百万円増、純利益では77百万円の増加となりました。これは、平成19年3月20日修正発表時点と比較して、金融環境の良化から営業外収益が増加したことならびに景気回復に伴い貸倒引当金の戻入益が予想より増加したことによるものであります。一方、通期に関しましては、中間期が予想より増益となったものの、ゼネラルサプライへの簡易会社分割に伴う有形固定資産の移転により、関連会社不動産賃貸収入等の関連会社売上高の減が見込まれることから、前回発表の業績予想より、売上高を200百万円減の1,800百万円と修正いたしました。

（連結業績）

中間期においては、個別業績の当期純利益の増加、ならびに子会社において世界経済の景況の進展から持分法投資利益の増加に伴い経常利益が38百万円増加したことなどから、当期純利益が、予想と比較して138百万円増加いたしました。

通期においては、国内景気の回復基調持続は予想されるものの、主力のOA関連事業ならびにトナーリサイクル事業においては原料高・製品安の厳しい環境は続くものとみられます。一方では、当期において、完全子会社化をいたしました不動産事業のゼネラル興産が決算事務の合理化のため、決算期を9月期から当社と同じ10月期に変更したことに伴い、ゼネラル興産が以前から手がけておりました不動産開発プロジェクトのイタリア・ミラノプロジェクトの寄与が見込まれることから、売上高を500百万円増の29,000百万

円、経常利益を200百万円増の900百万円の予想に修正いたしました。なお、当期純利益は、経常利益の増加はあるものの、税負担の増加などから、前回修正とおりといたしました。

業績予想に関する注意事項

この資料に記載されている売上高および利益の予想金額は、本資料の発表日現在における将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成されたものであり、実際の売上高および利益は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上